



BOOK DESIGNS OF KATSURAGAWA, JUN

桂川潤の装丁

2010-2017 <予感>を包み込む

2017年 10/20(金)-10/25(水) 12:00-19:00

*ただしトークイベント開催の10/21と、最終日10/25は18:30まで

(入場無料/会期中無休)

▶ オープニングパーティー

10月20日(金) 19:00より/参加費500円

▶ トークイベント

「編集者×装丁者

直木賞・佐藤正午『月の満ち欠け』を担当して」

10月21日(土) 18:30開場、19:00開演

▶ 要・事前申し込み [定員:80名]/参加費 1,000円

会場:早稲田奉仕園リバティホール

出演:坂本政謙(岩波書店編集部)×桂川潤(装丁家)

執筆依頼から刊行までじつに18年。

直木賞受賞作・佐藤正午『月の満ち欠け』を担当した編集者と装丁者が、完成までの舞台裏を語る90分。

【主催・会場】早稲田奉仕園スコットホールギャラリー

(新宿区西早稲田2-3-1 <http://www.hoshien.or.jp/gallery/>)

phone: 03-3205-5403

e-mail: program@hoshien.or.jp

iPadが登場した2010年以降、書籍電子化の波を受けて、「紙の本と装丁は消えてしまうのか」と、あちこちで訊ねられた。出版状況はいつそう厳しいけれど、紙の本はどっこい生きている。魅力的な本屋やブックカフェが話題を呼び、ブックイベントが各地で催され、本と装丁の面白さに惹かれる人が以前より増えたように感じる。世の流れは未だ油断ならないが、存外一本調子ではなさそうだ。

桂川潤「理想の装丁?」より(岩波書店『図書』2014年11月号)



この展示とイベントは公益財団法人早稲田奉仕園の講座「Study Hall」の主催で開催されます。

早稲田奉仕園の「Study Hall」=自習室は、あらゆる世代の人が楽しく学べる場として、「近いこと、遠いこと、近くて遠いことを学ぼう」をテーマに、早稲田奉仕園で実施する4つのプログラムカテゴリー(「世界を知る」、「ことばを学ぶ」、「アートを学ぶ」、「いのちと社会を学ぶ」)につながる小さな講座を定期的に開催しています。